

研究レポート No.823 岩手県農業研究センター

リンドウ極早生品種「いわて夢あおい」における 全茎収穫のためのジベレリン処理技術

【1 成果の概要】

- (1) 極早生品種「いわて夢あおい」を全茎収穫後し、越冬芽（切株）にジベレリン 100ppm 液を株当たり 5～10mL 散布することで新たな株養成茎の伸長が促進されます（図1）。
- (2) 本処理により、翌年は株養成茎を3本程度残す慣行の収穫方法と比較して、S規格を中心に株当たり2本程度の増収となります（図2）。

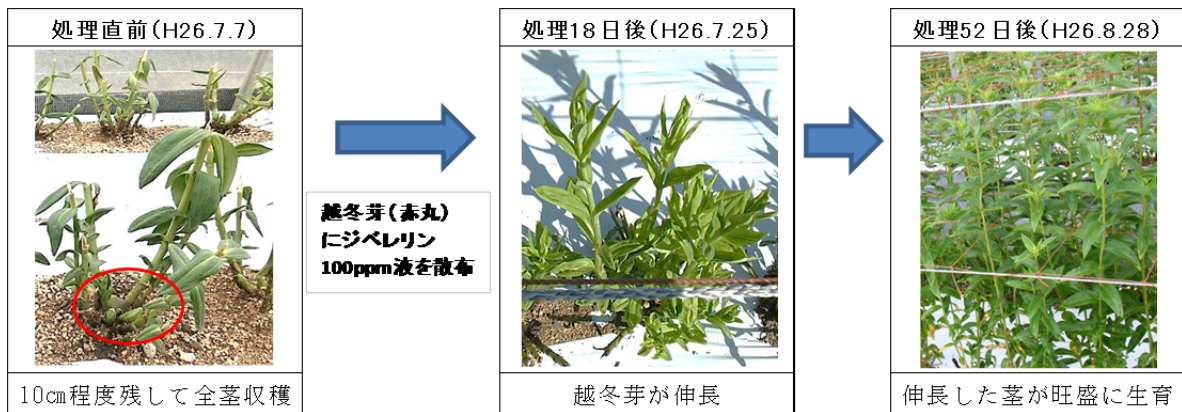


図1 ジベレリン処理方法及び処理当年の生育状況

表1 ジベレリン (GA) 処理翌年の開花日

調査年度	株齢 (定植年)	試験区	GA処理日 (年月日)	開花日 (月/日)
H26	3年生 (H24)	全茎+GA 5 mL	H25	6/27 (-8)
		全茎+GA10mL	7/17	6/27 (-8)
		3本残+GA無 (慣行)	-	7/5
H27	4年生 (H24)	全茎+GA 5 mL	H26	6/24 (-6)
		全茎+GA10mL	7/22	6/26 (-4)
		3本残+GA無 (慣行)	-	6/30
H27	3年生 (H25)	全茎+GA 5 mL	H26	6/16 (-8)
		全茎+GA10mL	7/7	6/18 (-6)
		3本残+GA無 (慣行)	-	6/24

※開花日：開花盛期 (50%開花日)

※括弧内は慣行との差

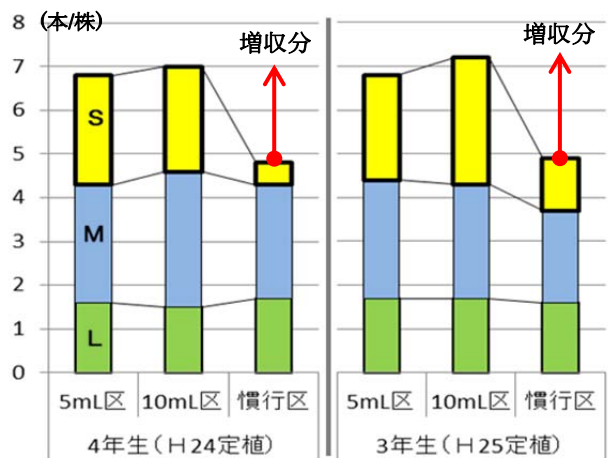


図2 規格別切り花本数 (H27)

※出荷規格 (切り花長・花段数)

S : 60 cm・3段、M : 70 cm・4段、L : 80 cm・5段

※株当たり8本仕立て

【2 留意事項】

- (1) 本処理により、翌年の開花期が1半月～1週間程度前進します(表1)。
- (2) 本試験は県南部における「いわて夢あおい」のみの結果です。他の地域及び品種については、事前に効果を確認の上で導入してください。現状で本技術が適用できる品種は、ジベレリン処理後の株養成期間を確保できる極早生品種に限られます。
- (3) 全茎収穫は2年生株から可能ですが、生育不良株や副塊茎のない株では、欠株が助長されることがあります。本技術は副塊茎も充実した生育良好な株が大部分を占める圃場で使用してください。
- (4) 処理が遅れると翌年の生育に影響しますので、遅くとも7月20日頃までに処理を終了します。